

多摩地域の在宅医療・介護・福祉・保健を支える

ふれあい通信

2023
6月号



Index

P2

特集

訪問看護の現場から
ご家族を支える訪問看護の力

P6 ケアマネ相談室 File 10 たまふれあいグループ連携施設のご紹介 その11

P8 スタッフ紹介 たまレポ! 訪問看護ステーション 看護師 嶋田 健太郎

特集

訪問看護の現場から

ご家族を支える

訪問看護の力

訪問看護師は、在宅療養に欠かせない医療処置をはじめ、病状観察による悪化防止や療養生活の相談とアドバイス、医師やケアマネジャーなど多職種連携の要となる存在です。今回の特集では、ご自宅での療養生活を希望するご利用者・ご家族を支える、訪問看護の仕事をご紹介します。

家族の負担や急変時など
在宅療養への不安も

国民の4人に1人が後期高齢者という超高齢社会を迎える2025年。訪問診療を必要とする在宅療養者については、高齢化に伴う患者数の増加に加え、療養病床からの地域移行に伴う患者数の増加が見込まれています。私たちが医療・介護サービスを提供する川崎市でも、訪問診療を必要とする在宅療養のニーズはさらに増加する見通しです(図1)。

政府のアドバンス・ケア・プランニング(ACP)についての調査では、医療・介護職を除いた一般国民の約半数が、自宅で医療・療養を受けたいと希望しています(※)。

一方で、医療機関や介護施設など、自宅以外で医療・

訪問看護は
医療的ケアだけではない
在宅療養者の伴走者

訪問看護は、在宅療養するご利用者のご自宅を訪問して、病気や障がいに応じた看護を行う医療サービスです。主治医の指示を受け、病院と同じように点滴、注射などの医療処置を行うイメージが強いですが、ご自宅で最期を迎えたいというご希望に沿い、健康状態の観察や療養生活の相談、アドバイスも行っています。

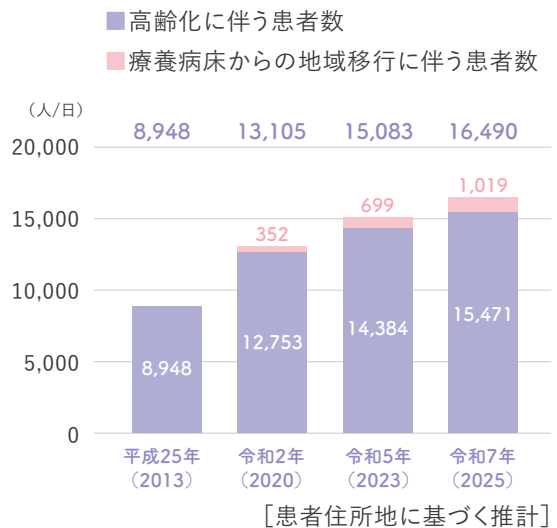
訪問診療では、原則月2回の計画的な医療サービスを医師が行いますが、訪問看護師はご利用者の状態に合わせて週1〜3回、ご自宅を訪問します。医師には聞きづらい治療のことや、介護職員では答えられない医療のことについて、垣根なく相談できる存在です。

厚生労働省の調査では、ご利用者の要介護度が高くなるにつれて「家族等の介護指導・支援」の割合が高くなっています(図2)。訪問看護師がご利用者への医療サービスだけでなく、ご利用者を介護する家族のサポートにおいても、重要な存在であることがうかがえます。頻度高くご自宅に入る専門職として、訪問看護師はご利用者やご家族の伴走者だといえるでしょう。



図1

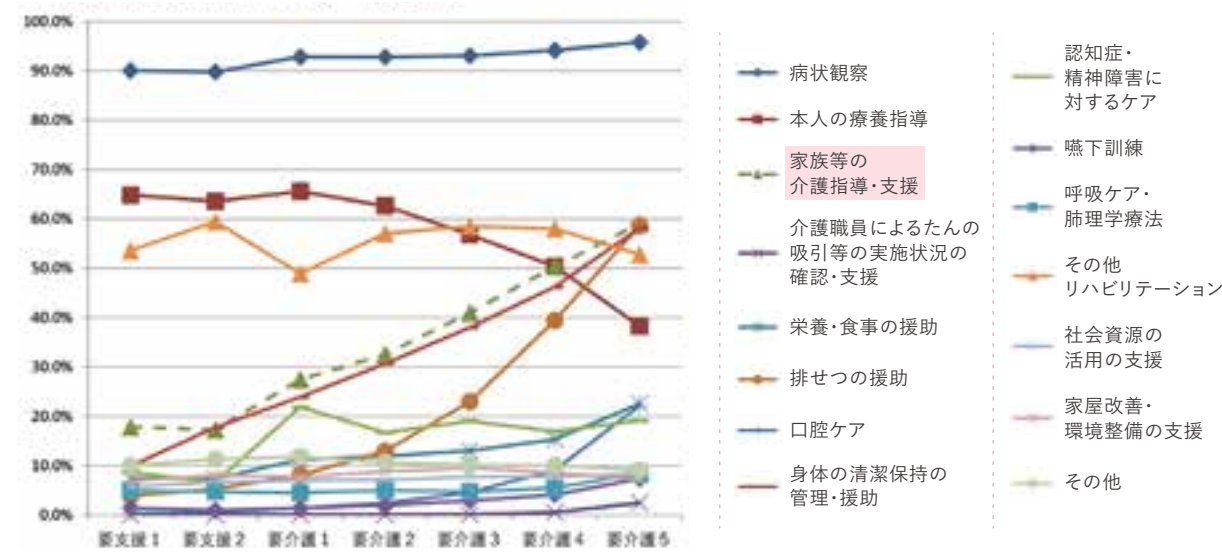
川崎市における訪問診療を必要とする在宅療養者の推計



出典:かわさき保健医療プラン[2018-2023年度]改定版(川崎市)

図2

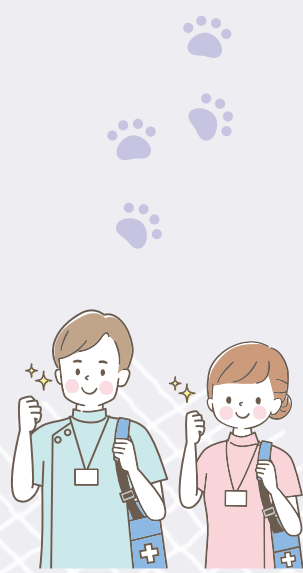
訪問看護の提供内容(1ヵ月)
複数回答



厚生労働省 第182回 社会保障審議会介護給付費分科会 資料より引用

療養を受けたいと答えた人に理由を聞くと「介護してくれる家族等に負担がかかるから」が最も多く、次いで「症状が急に悪くなったときの対応に自分も家族等も不安だから」が多い結果となっており、在宅療養に不安を抱える人の多いことが分かります。

※末期がんで食事や呼吸が不自由だが意識は健康時と同様で回復の見込みがない場合の希望「人生の最終段階における医療に関する意識調査 報告書」(平成30年3月人生の最終段階における医療の普及・啓発の在り方に関する検討会)



訪問看護師は
ご利用者の
生活を支える存在

地域相談室
地域連携看護師・ケアマネジャー
なかむら えり
中村 絵里



病院から在宅療養に移行されるご利用者については、退院カンファレンス時に訪問看護の導入が決定されることが多く、判断の基準は、ご利用者に定期的な医療処置が必要な場合や、ご自宅で介護を担うご家族への指導・援助が必要な場合です。

訪問看護師は頻度高く訪問するため、ご利用者はもちろん、ご家族の状況や変化に気付きやすい立場にあり、いち早く医師などにつなぐことができます。ご利用者やご家族から「もっと看護師さん入れないの」と声をいただいて、訪問看護師から訪問回数の見直しを提案されることもあります。技術的な信頼だけでなく、その人らしい生活が支援されている実感があるのでしょう。

在宅療養が長くなるとなおさら、ご利用者・ご家族の人生に寄り添う存在だと感じます。だからこそ訪問看護師との相性は大事で、合わない場合は相談室にお気軽にお声がけいただけますようにご利用者・ご家族にはお願いしています。



たまふれあい訪問看護ステーションのご利用例ご紹介

ケース 3 Oさん 82歳 男性



保湿クリームを塗りながら
全身の皮膚の状態を確認



リフトを使い車いすへ移動。日中
はリビングで過ごされています。

介護者の相談相手として 週1回の訪問看護をご利用

6年前の脳梗塞による寝たきりから、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリをご利用されています。Oさんの奥さまが主たる介護者となり、同居する子ども夫婦が介護をサポートされていますので、必要最小限のサービス利用で在宅療養を長く継続されています。

訪問看護では、排せつの処置や観察を行っていますが、寝たきりであること以外に医療的ケアのニーズはありません。週1回の訪問看護では、奥さまが不安に思っていることをお聞きしてアドバイスするなど、相談相手となり、家族ケアを行うことが中心です。奥さまの介護による疲労度を訪問看護時に察知して、ケアマネジャーにレスパイトケアを提案する役割も担っています。

ご利用者の様子や、奥さま自身の心身の状態などについて話を聞きます。この日は前夜に奥さまが発熱したと伺い、体調についてのヒアリングも行いました。



ご利用者の奥さまと一緒に
たくさん話しかけをします。



でも、
もともと
可能
です。



Q 入浴介助を看護と介護、どちらに頼むか迷います。
A 酸素吸入の管があるなどのケースや、麻痺などで浴槽をまたぐことが困難な人は訪問看護を選んでください。また、ご利用者の安全確認のための入浴介助であれば、介護サービスをあえて入れなくても訪問看護の範囲内で見守りをすることも可能です。

Q 医療保険と介護保険それぞれでサービス内容は違いますか？
A 看護サービスの違いはありません。基本的には1枠1時間の設定で予定を組んでいます。基本的には1枠合は最長1時間半、滞在できるため、ご利用者の状態によってスケジュールを調整します。介護保険は単位数が決まっているので、処置が時間内に収まらない場合はケアマネジャーに相談します。

ケアマネから
訪問看護師に質問！

ケース 1 Hさん 89歳 男性

1週間のご利用例

- 土 日 看多機(泊まり)
- 月 訪問看護
- 火 訪問診療
- 水 看多機
(デイスサービス+リハビリ)
- 木 訪問看護
- 金 訪問リハビリ



痰吸引



褥瘡処置



バイタルサイン測定

奥さまの「自分で看たい」気持ちを 尊重しつつ負担軽減のため看多機へ

奥さまが「できるうちは自分で看たい」との意向で、5年前からたまふれあいクリニックの訪問診療と訪問看護、訪問リハビリテーションを利用して在宅療養を開始されました。気管切開されているため痰吸引や経鼻経管栄養、HOT(在宅酸素療法)など、医療的ケアのニーズが高いご利用者です。

奥さまによるHさんへのケアは変わらずできているものの、褥瘡対策として指導しているポジショニングなど、新しいことへの対応が難しくなっていると訪問看護師が気づきました。Hさんの病状の変化もあり、泊まりも可能なたまふれあいグループの看護小規模多機能型居宅介護(看多機)ナース&ふれあいのご利用をお勧めしました。グループ内でのサービス変更なので、これまでと同じ医師、看護師、作業療法士、言語聴覚士が担当していて、奥さまの安心感につながっていると感じます。

奥さまの心身の状態を知るため滞在中はたくさん話します。長くお付き合いをしているおかげで気心もして、昔話やお孫さんの話題でも盛り上がりやす。お誕生日のカードも大切に飾っていただいています。



ケース 2 Gさん 30歳 男性

訪問看護は若年の重度障がいのある方でも 専門知識を得て生活を工夫

20歳代後半に神経疾患を発症されました。四肢麻痺の状態となり重度障害者医療費助成を受けていて、大学病院に数カ月おきに通いながら、訪問診療と訪問看護、訪問リハビリをご利用されています。訪問サービスは高齢者だけでなく、若い障がいのある方もご利用いただけます。Gさんは四肢麻痺だけで意識も言葉も問題はないため、訪問サービスを受けながら復職に向けてリハビリを頑張っています。点滴のための中心静脈ポートを埋め込んでいるので、訪問看護が定期的なフラッシュ(洗浄)と、巻き爪の爪切りなど身体ケアを担っています。同居されているお母さまはなるべく本人が自立して生活できるよう、音声で動くベッドを導入するなど、訪問看護・訪問リハビリからのアドバイスに積極的に取り組まれています。

地域で暮らし、 地域で生きる ということ。

人々は地域で暮らし、地域の中で生きています。

世の中がどれほど発達したとしても、
人々の暮らしは地域の中にあります。

そして、たとえどんなに科学技術が進んだとしても、
人が人へ伝えるぬくもりや、やさしさを
超えることはできないと考えています。

だからこそ、私たちは地域に徹底した
こだわりを持ち続けます。



地域の人々の、
よりよい生活と人生のために

たまふれあいグループは、医療・介護・福祉・保健事業を
統合的に展開する医療法人グループです。

- たまふれあいクリニック
訪問診療／専門外来／訪問リハビリテーション
- たまふれあい訪問看護ステーション
- たまふれあい居宅介護支援事業所
- たまふれあいの森
健康相談／セミナー／健康チェック
川崎市多摩区登戸1763 ライフガーデン向ヶ丘2F
- たまふれあいグループホーム 枳形（医療・看取り対応型）
- ナース&ケアハウス ふれあい（看護小規模多機能型居宅介護）
川崎市多摩区枳形6-19-8
- たまふれあいグループホーム 登戸新町（医療・看取り対応型）
川崎市多摩区登戸新町186
- デイサービスふれあい
川崎市多摩区生田3-18-2 アボードベア1F
- たまフレ！（障がい者就労支援事業所）
川崎市多摩区登戸2519-1 ヨシザワ10ビル4F

ケアマネジャーの質問に多職種スタッフが答えます！

ケアマネの気づき
ご利用者の後見人の申し立てが必要になる前に、私たちケアマネは動かなければいけません。ご家族やご親族がないご利用者は増えているので、民間のサービスも含めてもっと社会資源を把握する必要があると感じました。

ケアマネ
奥さんは退院すればまた自分で金銭管理できるので大丈夫とおっしゃっていますが、ご夫婦とも高齢のため、判断能力がある今から準備が必要だと思っています。

Bさん
以前あったケースですが、独居で親族もいない方で、不動産など資産を多くお持ちでした。ご高齢で、亡くなったあとのことが懸念されたので遺言書作成をお勧めしたのですが受け付けていただけませんでした。

ケアマネ
そうでしたか。直近については、社会福祉協議会の「あんしんセンター」で日常的な金銭管理サービスを契約していただきます。奥さんの病状はいかがですか？ 認知症などなかったと記憶しています。

Bさん
現在の課題整理から、もしもの時の備えまでを見据えた生活改善アドバイスに力を入れて活動している社会福祉士の方がいます。老後資金や任意後見契約、死後事務委任契約、遺言書作成など、ケアマネの業務範囲外のことも詳しく、福祉・介護・医療を理解した上で、その方の生活に合った見立てをしてくれるので安心です。ご自宅に訪問してくださるので、今回のケースにはこの方のご紹介が向いているかもしれませんね。

ケアマネ
ほかに、認知判断機能が低下して預金の引き出しなどができなくなる場合に備え、契約者本人に代わり取引ができる代理人を指定する銀行のサービスなどもあります。

ケアマネ
サービスが多様化していますよね。ご利用者のニーズに合ったサービスを探します。

ケアマネ
いいアイデアですね。でも今回はご夫婦とも出向くことは難しい状態です。

Bさん
けなかつたので、司法書士の先生を公共機関にお招きして「無料相談会」という名目でその方に参加していただき、一歩を踏み出していただきました。

ケアマネ 相談室 File10

テーマ 社会資源

考えた人



地域包括
ケアセンター
Bさん

いつもありがとうございます！

その11

たまふれあいグループ連携施設のご紹介

ライフコミュン百合ヶ丘

☎044-959-6090

介護付有料老人ホーム
（一般型特定施設入居者生活介護）



神奈川県川崎市麻生区万福寺4-1-1
2006年2月開設
事業主体：株式会社 木下の介護

食べる楽しみを大切に、外出イベントにも力を入れていきたい

たまふれあい
クリニック
鈴木 忠院長より
おすすめ
ポイント

施設の看護師さんのチームワークがよく、技術も高いので医療必要度のある方でも安心できると思います。夫婦部屋もあり、在宅からの移行の選択肢も広がります。



▲左から荻野美由紀さん「職員が仲良く、居心地がいいので勤続8年目になりました」、柴山祐美さん「ご入居者と職員も仲が良く和気あいあいとしているのがこの魅力です」、岡美穂さん「やりがいのある仕事なので今後はもっと俊敏に対応ができるようになりたいです」(いずれも介護職員)。

当施設は、小田急小田原線百合ヶ丘駅から徒歩4分の線路沿いという好立地にありますが、電車の音が館内に響くこともなく建物内はとても静かです。方針として「やりすぎない介護」を心掛けています。ご入居者に何でもやってあげることは簡単ですが、ご自身でできることは時間がかかっても見守りに徹するよう努めています。

皆さん、食べることを楽しみにされていて、お取り寄せのスイーツがとても好評です。昨年12月には、ホテルでクリスマスランチを楽しんでいただきました。今後は外出イベントにも積極的に取り組みたいと思っています。

また、常勤の機能訓練指導員による朝の体操を楽しみにされているご入居者がたくさんいます。身体機能の維持・向上を目的に週5日、各フロア30分のメニューをこなします。かなりの運動量ですが、機能訓練指導員の声掛けが上手なこともあり、皆さん積極的に取り組まれています。介護職員間のコミュニケーションも円滑で、職員の仲の良さが施設の良い雰囲気をつくっていると感じています。

笑いが絶えない家庭的で温かい雰囲気づくりに尽力しています



施設長(介護福祉士)
おおもり わかこ
大森 和佳子さん



医療法人メディカルクラスタ TEL:044-931-3380
〒214-0014 川崎市多摩区登戸1763 ライフガーデン向ヶ丘2F 【看護師・介護職募集中!】



訪問看護ステーション
看護師
しまだ けんたろう
嶋田 健太郎



患者さんのためにもっとコミュニケーションがとれるよう、お話ししましょう！

たまレボ!

今月のインタビュー

地域相談室 相談員

しんどう ゆり
進藤 優里



こんにちは！ たまふれあい地域相談室です。

今回は、今年4月に入職した北海道出身の看護師の嶋田を紹介します。学生時代に入院した経験があり、男性看護師が担当で「友達みたいな感じでいいな」と思ったことがきっかけで、看護師の道へ進んだそうです。

総合病院に勤務していた2020年に新型コロナウイルス感染症が拡大し、一般病棟からコロナ病棟へ異動するなど、コロナ禍での病院勤務を経験しました。入院してから寝たきりになってしまった患者さんのご家族が、退院したらご自宅で看るつもりでいたはずが、面会できない状態のまま退院する日を迎えて想像よりも容体が悪く、ギャップに苦しめている姿を見て悩んだこともあったといいます。

病院は治療の場ですが、甘いパンが好きな糖尿病の患者さんが食事制限を我慢できずに隠れて食べてしまうのであれば、どのくらいの量なら差し支えない程度に食べられるのかを考えて、可能な限り長く楽しい時期を過ごしていただけるように看護したいと話します。在宅は生活の場なので、我慢ではなく本人の思いに沿えるような看護ができると思い、たまふれあいクリニック訪問看護ステーションへ転職したそうです。

訪問看護を始めてまだ日が浅いため「今はわくわく8割、不安が2割」と話す嶋田が、皆さんからの相談をお待ちしています。



趣味はスポーツ観戦。
サッカーチームの追っかけを
していました!(^^)! ⚽

ビールとウニが好き
北海道限定の
地ビールが最高!



訪問看護への
同行や教育担当者の
指導を受けて
毎日がんばって
います。



地域相談室

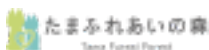
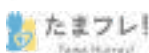
イケダのつぶやき



今月の特集で、在宅療養者にとって訪問看護がとても重要な役割を担っていることが伝わればうれしいです(^_^)♪
ご利用者のご家族より「訪問看護師の方がいつも話を聞いてくれてとても助かっているし、安心

する」とのお声を、私もいただいたことがあります。
訪問看護は医療的ケアだけでなく、ご家族やご本人の心のケアも担っていることに気づかれました<(_ _)>

いけだ
(地域相談室 相談員 池田あゆ)



ご相談は下記の地域相談室までお電話ください

044-931-0220

〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1763
ライフガーデン向ヶ丘2F